

水稲重点技術対策

～収量・品質の向上と生産コスト削減を目指して～

越前しきぶ姫の品質・食味を高め、消費者へ安全で安心なお米を提供するため、「重点技術対策」を実践しましょう。

1) リン酸・加里・カルシウムの補給を (ケイカル + α)

近年、水田土壌の三要素の欠乏が問題となっているため、リン酸・加里ならびにカルシウムを中心に微量元素をバランスよく含んだ有機燃焼灰（ミネラルPK）を圃場に施用し、有機肥料栽培を中心に稲作全般の収量や品質を安定させるとともに、農業生産費の大幅な削減を目指します。

稲作の場合 肥料名	成分	窒素	リン酸	加里	カルシウム	苦土	アルカリ	ケイサン	現物あたり(%) コスト比較	
									施用量 (10aあたり)	費用 (円)
ケイカル						3	45	30	500	8,500
ミネラルPK(粒)			20	18	28	6	37	1.5	60	3,888
ようりん			20			12	45	20	60	8,940
けい酸加里				20		4	5~8	30	60	9,450



ミネラルPK(粒) リン加里の補給を目的とした
有機循環型の土壌改良資材として



👉 リン酸の働き

実肥と言われ、稲の生育を促進させます。不足すると生育が悪くなり収穫に影響します。

👉 加里の働き

根肥と言われ、茎や根を丈夫にし、耐病性を高めます。不足すると収穫が減ります。

👉 カルシウムの働き

細胞と細胞の結びつきを強くし、作物の根の発育にとって欠かせない成分です。カルシウムは水に溶けやすく、根張りの改善により炭水化物等の集積を促進します。

2) 醗酵鶏糞で基肥コスト削減を

特別栽培作付け農家が施肥している有機質肥料は窒素割合が低い商品が多いだけでなく、肥効が緩慢であるため、窒素成分を補うために醗酵鶏糞を基肥として施肥することで生産コストの削減を図ります。



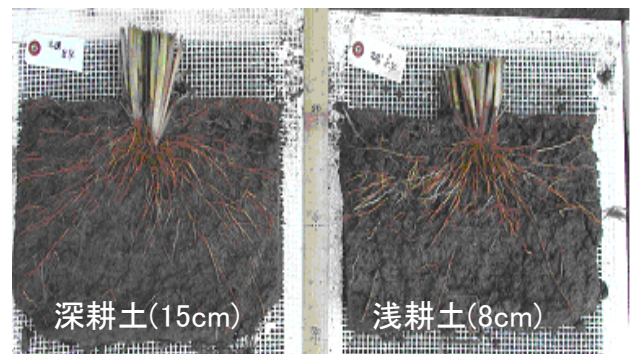
10a当り 3,600 円の
コスト削減

過去に土壌診断や食味調査を行った結果に基づいた食味・土壌MAPを活用し、地域別の地力に応じた施肥設計を行い、日本晴や省農薬あきさかりの収量向上と特別栽培コシヒカリの食味や品質の向上を目指します。

3) おいしい米は土づくりから

「イネは土で作れ」といわれるように、稲作に地力はなくてはならないものです。水稻の収量は地力に依存する割合が60%前後と大きく、中でも土壌有機物の割合が大きくなっています。おいしい、登熟の良い米づくり、産米の大粒化には、稲の根の分布を拡げ、健全な発達が求められるため、丁寧な耕うん作業で、作土深15cm以上をしっかりと確保しましょう。

□耕深の違いによる根域の違い



平成 29 年度インセンティブ買入制度

目
標

① 慣行・特別栽培日本晴 600ha

② 省農薬あきさかり 120ha

※ 省農薬あきさかりについて目標面積に達したため、申込を締切りました

③ 特別栽培コシヒカリ 500ha

※ コシヒカリタンパク含有率 5.3%以下（食味値 85 以上）

